

## 南方熊楠顕彰館について

### 【内容】

設計コンペ形式で建てられた南方熊楠顕彰館は全国の注目の的ですが、建築雑誌にも取り上げられ、田辺の地に訪れようとする人も多いと思います。箱はできましたが、周辺道路の整備不備、広報、何より市民の認知不足だと思います。施設を単体で進めるのではなく、全体として捕らえた構想が不可欠であり、熊野古道を核とした観光構想が必要ではないでしょうか。

### 【回答】

南方熊楠顕彰館は、ご高承のとおり、熊楠翁が大正 5 年より昭和 16 年（没年）までその生活と研究の拠点と定めた中屋敷町の邸宅に遺された、その生涯を費やして蓄積した多岐にわたる膨大な（約 2 万 5 千点に及ぶ）蔵書・資料を後世に伝えることができるよう、大切に保存しながら、広く公開しています。

これまで、熊楠翁の研究業績や実像を紹介する取り組みや、南方邸に遺された蔵書・資料の調査整理、保存を行う等の顕彰事業を、顕彰会スタッフである市民ボランティアの皆さんや研究者が中心となり、官民協働で推進してきました。

南方熊楠顕彰館は、これまで取り組んでまいりました顕彰事業を継続し、田辺市民はもとより、県内外、世界の人々が熊楠翁の業績や実像に理解を深めることができるよう、さらに積極的に官民協働でこれらを発展させていく拠点と考えております。

つきましては、顕彰館の活動が後世の遺産となるよう、多くの皆様にご理解、ご協力いただければ幸いに存じます。

さて、ご指摘のとおり、南方熊楠顕彰館は、5 月 14 日の開館以降、田辺市民のご利用を始め、全国より多くの皆様にご来館いただいております。

9 月末現在の統計では 6,040 名の方が南方熊楠顕彰館を訪れ、また、4,119 名の方が南方熊楠邸をご観覧いただいております。お客様と接する範囲では、正に北は北海道、南は沖縄よりお越し方がいらっしゃいます。

これは、開館前よりの PR 活動を通じ、田辺市役所記者クラブだけでなく、設計コンペや南方熊楠顕彰活動を通じておつきあいのある報道・出版関係社（者）への資料提供を行うことにより、各種マスコミや出版物に取り上げられてきたという背景があります。

一方、観光協会や道路管理者等の関係者との連携により、観光パンフや道の駅配置マップ等でもご紹介いただいていること、また、地元商店街の皆様が「祝開館 南方熊楠顕彰館」という貼り紙を設置していただき、お尋ねの来訪者へ場所をご案内

していただいていること、紀伊田辺駅前の観光案内センターの運営にあたられている観光ボランティアガイドの会の皆さんにも街中の立ち寄りスポットとして活用していただいております。

このように南方熊楠顕彰会を中心に、多くの市民、関係者に支えられ、施設運営を行っています。

まだまだ、市民の認知度が低いとのご指摘については、努力不足と反省すべき点であると存じます。開館後、毎月開催の月例展（小規模展）、夏休みには小学生対象の講座や特別企画展示を行う等の取り組みを通じて、また特にこれからの時代を担う若い世代の小中学校の課外授業にご活用いただく等の、市民の皆さんに気軽にご利用いただける機会を提供してまいりました。今後も、こうした機会を提供するとともに、「顕彰館はどこにあるのか」「顕彰館で何ができるのか」等々の基礎的な情報が広く市民の皆さんの間に普及するよう努力してまいりたいと存じます。

そして、顕彰館では熊楠のフィールドワークの場であった熊野古道を含む田辺市および熊野全域での熊楠の足跡とともに、地域の魅力を紹介しており、熊楠を通じて世界遺産に目を向ける方もいらっしゃいます。

田辺観光協会やツーリズムビューローが主導となりますが、田辺市全域の観光資源を視野に入れた取り組みが行われており、顕彰館も連携するなか（熊楠についての知り、学ぶ施設ではございますが）、旧市街地観光のランドマークとしての役割も果たせればと考えています。

（担当：南方熊楠顕彰館）